

1 全体計画

学校の教育目標

・思いやりをもって 行動する子 (かかわり合う子) ・すすんで学び 表現する子 (学び合う子)

・明るく元気に 運動する子 (きたえ合う子)

令和年度学校経営方針

生命尊重と人権教育を基盤として「自律」、「協働」、「参画」の視点から豊かな心の育成、確かな学力の定着、体力の育成を図る。これらの育成のために主体的・対話的で深い学びの視点から教育実践を見直し、生きていくための資質や能力を育てる授業づくり、教育活動を展開していく。

本校の捉える「確かな学力」

- ・自ら進んで学習に取り組む意欲、態度
- ・各教科で身につけた知識、技能等の習熟
- ・知識、技能を活用し、思考力・判断力・表現力をもって課題解決をし、自分の思いや考えを深める力

令和元年度の指導の重点

<各教科>

- ・自分の思いや考えを深める子の育成
- ・ICTを活用した問題解決的、体験的な学習の重視

<道徳>

- ・多様な他者と関わり合う教育活動
- ・小中連携教育により地域的な課題を反映させた道徳教育の全体計画、年間指導計画の充実

<特別活動>

- ・「なかよし班」を中心とした異年齢活動を重視し、リーダーの育成と協力する心の醸成を図る。

<総合的な学習の時間>

- ・学校図書館やICT機器、外部人材を効果的に活用し、学び方やものの考え方を身に付けさせ主体的・対話的で深い学びを引き出す。

<生活指導>

- ・基本的な生活習慣と主体的な生活態度、社会規範の育成
- ・保護者や地域との連携による児童の健全育成

<進路指導>

- ・キャリア教育の全体計画に基づき、発達段階に応じた勤労観や職業観を養い、自己の生活や生き方を考え、進路を選択できる能力の基礎を養う。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

・児童が習得した知識や技能を生かして、「話し合い」「伝え合い」「考え合い」等の学び合う活動を充実させる。
・校内研究での授業改善を通し、児童が思いや考えを深め合う学習展開を工夫し、授業を構築する。

教育課程編成上の工夫

・夏季休業中に学習教室を設定。
・朝学習の時間や体育朝会、縦割り班活動を実施し、児童の体力向上と運動の日常化を図る。
・年3回の読書月間を設け、本に親しむ態度や読むことへの関心を高める。

評価の工夫

・年間指導計画、評価基準に基づき授業における指導と評価の一体化を図る。
・授業の中で児童一人ひとりの発言の受け止めたり、価値付けたりすることを通して、指導と評価の充実を図る。

校内研究・研修の工夫

・“未来社会を見据えた「協調的な学び」の創造”を研究主題とし児童の学びの力を引き出す授業を目指す。
・指導教諭を中心にOJT研修を充実させる。来年度からの新学習指導要領完全実施に向けて授業力向上を図る。

家庭・地域との連携の工夫

・地域、関係諸機関、企業等の外部講師を招聘し、協働体制での教育活動を展開する。
・授業改善推進プランを、ホームページに記載し家庭での取り組みを啓発する。

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

- ・3年生以上の「算数科」で少人数クラスを展開している。T2として1クラスに入ってもらい、個別指導や助言を行い、児童の学習理解に務めている。

ALTの活用の工夫

- ・3, 4年生の外国語活動、5, 6年生の外国語科の授業でT2として授業を行っている。児童は生きた英語表現や発音に触れ、活動したり学んだりすることができるようにしている。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- ・基礎的・基本的な知識・技能を活用して、自分の思いや考えを広げ深めることができる授業づくりを行う。
- ・学校図書館を利用し、幅広く読書をするように指導する。
- ・漢字や言語を正しく使った文章を積極的に書くことができるように、日常生活や他教科の学習の際にも指導をしたり、相手意識、目的意識をもって書かせたりする。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・習った文字を意欲的に使って文章を書く児童が多数を占めるが、読む力、書く力において、個人差が見られる。 ・読む力、書く力が低い児童は、語彙や言語についての知識、経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み書きが困難な児童への個別指導が必要である。 ・語彙の獲得数によって、読書や発表、話し合いの場面での積極性に影響が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補充学習や毎日の宿題で、音読と語彙や文法についてのプリントを用いて、個々の児童の語彙力の増加と書く力の伸長を促す。 ・読み聞かせをしたり本を紹介したりして読書を推進すると共に、日々のスピーチ活動などの取組を意図的に設定していく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで、内容を正しく理解したり、簡単な構成を考えて文や文章を書いたりする力に、個人差が大きい。 ・言語についての知識の習得や理解は良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書かれている事柄の順序や場面の様子を正しく把握できていないために、読書に親しめない傾向が見られる。 ・児童によっては、何をどう書いてよいか分からず、書き進めることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題で音読を習慣づけながら、文章の中の重要な語句や文を落とさずに読む力を付けさせる。学校図書館を継続して活用して様々な読み物に親しませる。 ・一人ひとりの気持ちや経験を大切に、楽しんで書けるようにさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、組み立てを考えて書いたり、自分の考えを表現したりすることが難しい児童が多い。 ・読み取りでは、文の構成を意識して、論理的に読み取ることが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもつことはできるが、書いて表現することに苦手意識をもつ児童が多い。 ・叙述をもとに、登場人物の気持ちを理解し、文の構成を意識して筆者の伝えたいことを読み取るのが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」ことへの抵抗感を少なくするために、書き方のフォーマットを示して、自分の考えを書いていく見通しをもたせる。 ・板書を工夫し、物語や説明文の全体の流れが一目でわかるようにし、文の構成や、叙述をもとに読み取ることができるようにさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科を基に自分の考えを書く力が定着してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書くことが得意な児童と苦手な児童の差が大きい。苦手な児童は、書く内容の理解、文章の書き方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く内容について考えを広げたり整理したりする学習、文章を書くための簡単な構成について理解する学習を授業の中に取り入れていく。

	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や言語についての正しい理解や、文章内容を正確に読み取ることが難しい児童が多い。 	<p>ての理解に課題が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字や言語に関する定着度に差があり、文章の読み取りが難しくなる原因にもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字については引き続き継続的に小テストを実施し、定着できていない字についての反復学習を取り入れる。また言語については、国語の言語の単元以外でも、辞書などを活用して理解を深めていく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 物語や説明文など、心情や要旨を読み取る力について、8割の児童はよくできているが、できない児童との力の差が大きい。 叙述に沿って文章を読み取ることができる児童が多いが、文末表現に気を付けて書くことや自分の意見を書くことに課題がある。 漢字や言葉の知識、理解、定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 叙述に沿って読んだり要旨を捉えて読んだりすることに、課題のある児童がいる。 自分の意見をもったり自信をもって書いたりすることができない児童がいる。 知識、定着に課題がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉指導の時に、教科書の拡大図等を用い、文の構成や叙述の関係がよく分かるような工夫をして指導する。苦手な児童には個別指導する時間を確保する。 国語科だけではなく様々な授業でも自分の考えを書いたり発表したりする場を設定する。 復習テストをしたり問題数を減らしたりすることで、知識の定着と意欲の向上を図る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 説明文における筆者の考えや物語文における作品の主題の捉えができる児童とできない児童の差が激しい。 文章を読み、自分の考えや意見をもつことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 大まかな文章内容の理解はできていても、正確に読み取ることが難しい児童がいる。 読み取りはできても自分の考えや意見をもつ段階になると手がとまる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 要点、要旨等、説明文の読み方や物語文の読み方を児童に指導し、文章の読む観点を指導する。 筆者の考えに対して自分はどうか考えるか等、自分自身の考えをもてる活動を取り入れる。

(2) 社会科

社会科の重点

- ・ 社会的事象に関わる基礎的・基本的な知識・理解を確実に習得させるとともに、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養う。
- ・ 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図の読み方や地図記号、方位など基本的な知識や技能が身に付いていない児童が多い。 ・ 学習問題を立て、その解決に向けて調べた情報を選択・判断する力や調べたことから考えたことを適切に表現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの生活体験で、地図に触れる機会が少ない。 ・ 自分の学習問題について調べてわかったことを地図や表に整理する力が不十分であり、自分の考えたことを書いて表現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図を資料として用いた授業づくりを行い、四方位・八方位の読み取りができるようにさせる。 ・ ペアやグループで取り組む時間を作り児童同士で教え合えるようにするとともに、書き方のフォーマットを示して書き出しでつまづかないようにさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習問題を自分の生活体験を振り返りながら立て、意欲的に探究活動に取り組める児童が多い。 ・ 47都道府県の位置や名称に関する理解に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究する際に、資料を理解したり、調べたいことに合った事柄を活用したりする力が不足している児童が多い。 ・ 都道府県の位置関係について、見当をつけたり大まかに理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の読み取りの場面を個人の探究活動の中だけでなく、授業の中でも取り組む場面を増やす。 ・ 授業の導入で、47都道府県に関する問題を出し、地図に親しむ時間を設定する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃から社会に目を向け情報を収集している児童とそうでない児童との差が大きい。 ・ 資料からわかったことや、それを基にして考える力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞やテレビのニュースを見る機会が少ない児童が見られる。 ・ 資料を読み取る力やそれが何を意味しているのか、考える力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の中で新聞やテレビのニュースを取り上げたり、身の回りの出来事を話題にしたりする機会をつくる。 ・ 資料の読み取り方（表題，着目すべき数値，単位）を丁寧に指導する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象に関わる基礎的・基本的な知識理解が不足している。 ・ 学習の問題を追究・解決する力が弱い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的、基本的な知識理解が乏しい児童が見られる。 ・ 自らの考えをもつための必要な知識や情報を収集する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な知識等を様々な社会的事実と関連させて理解の定着を図る。日常生活と結び付けて理解を深める指導を行う。 ・ ICTや学校図書館を活用し、必要な情報を得る力を伸ばすとともに、課題解決型の学習を中心に授業を展開し、追究・解決する力の育成を図る。

(3) 算数科

算数科の重点

- ・自ら課題を解決しようとする態度を育てる。
- ・図や数直線などを活用して自分の考えを適切に表現し、話し合い活動を通して様々な考えを理解する中で学習内容をより深く理解する。
- ・学習内容と日常生活とを関連付け、算数の良さや楽しさを感じることができるようにする。
- ・学習を振り返ることで、学習の積み重ねを自覚するとともに新たな課題を見つけ探求する態度を育てる。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算やひき算の答えを求めることができる。問題文から場面をとらえて立式することが難しい児童が見られる。 ・10以上の数の計算や、2とび、5とびなどの数の進み方、時計の読み方等が苦手な児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文から求められていることを捉えることが難しい児童が見られる。 ・数の概念や時間の感覚が十分に育っていない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読むときには、図やブロックを使って具体的に捉えられるようにし、問題文の意味や求めたいことを十分に理解させる。 ・生活場面や遊びにおいても数や時間と触れる機会を意図的に設け、理解を深めさせていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・「時刻と時間」領域の技能が定着していない児童が見られる。 ・長さの単位や水のかさの単位の換算ができない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・午前、午後を使って時刻を表すことが難しい児童がいる。 ・正確な単位の換算が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中でも、何時何分の読み方を確認しながら継続的に指導する。 ・映像を使うことや、実際に測ることをしながら意味を十分に理解させる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域においてもおおむね学習内容が定着している。 ・「量と測定」領域の技能が身に付いていない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものさしに示された長さを読み取る指導が不足気味である。 ・時刻と時刻の間の時間について理解を図る指導が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に関連付けながら、長さやかさ、時間などの量感を育てる指導が必要である。 ・具体物やICT教材を活用しながら量感を養うとともに、ものさし等の目盛りの読み方や器具の使い方を継続的に指導する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域においてもおおむね学習内容が定着している。特に数量や図形についての知識がよく身に付いている。 ・2桁や3桁のかけ算の技能が十分に身に付いていない児童がいる。 ・量や長さの適切な単位について理解が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の理解や技能に個人差がある。 ・かけ算の筆算において、数のしくみや途中計算に注目させ理解させながら計算していく指導が必要である。 ・単位同士の関係や単位の性質について理解を図る指導が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算については、一人ひとりに合った課題に取り組みせ、習熟を図る。 ・桁数の多いかけ算については、計算の結果だけではなく、途中の九九や繰り上がりなどにも気を付けながら確実に答えを出せるよう指導する。 ・日常生活に関連付けながら、長さやかさ、時間などの量感

	な児童が見られる。		を育て、単位について理解させる指導が必要である。
5年	<ul style="list-style-type: none"> どの領域についてもバランスよく学力の定着が見られる。 「量と測定」領域の技能が身に付いていない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の理解や技能に個人差がある。 三角形や四角形の作図など技能を定着させる指導が不十分である。 角の大きさなど見当をつけたり考察したりする力を伸ばす指導が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算については、一人ひとりに合った課題に取り組みませ、習熟を図る。 既習事項と関連付けて作図の仕方を理解し、器具を正しく活用し作図できるよう個別指導を充実させる。 数量や図形の大きさなどについて見当をつけ、見通しをもって課題解決に取り組む機会を授業内に設ける。
6年	<ul style="list-style-type: none"> どの領域についてもバランスよく学力の定着が見られる。 「数量関係」領域の理解や技能がよく身に付いていない児童が見られる。 割合についての理解が不十分な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の理解や技能に個人差がある。 表やグラフ、問題文の意図を読み取って考察する力を伸ばす指導が不十分である。 割合や百分率について理解を定着させる指導が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算については、一人ひとりに合った課題に取り組みませ、習熟を図る。 表やグラフを読み取らせるとともに、既習事項を活かして考察する授業づくりをする。 日常や児童自身の生活経験と関連付けて、割合について理解を深めさせる指導をする。

習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

- 3年生以上の「算数科」で習熟度別少人数指導を展開している。単元ごとにプレテスト、アンケートを実施し、児童が適切なクラスで授業を受けられるよう配慮している。また任期付短時間勤務教員は T2 として授業に入り、個別指導や助言を行っている。指導の充実をめざし、担任と児童の情報共有を行っている。

(4) 理科

理科の重点

- ・各単元で、問題作りの活動も含めた問題解決学習の授業計画を立て、学習を進める。授業の始めに、問題の再確認とその時間のねらいを確認して活動の目的意識をもたせ、考えながら授業に取り組めるようにする。
- ・観察・実験の視点を確認、または提示して観察・実験活動を進めたり、新しい器具や実験方法を経験する場と時間の確保をしたりして、技能の向上を目指す。
- ・生活事象との関連を意識した学習展開で、生活に活用できる知識の定着を図る。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に観察や実験に取り組むことができる。 ・学習の見通しを理解せず、学習に取り組んでいる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想を自分で立てたり、わかったことを自分の言葉でまとめたりすることが難しい児童が多い。 ・実験結果や資料を考察し、答えを導き出すことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題→予想→実験→結果→考察という流れを定着させ、学習のめあてを確認し、見通しをもって学習に取り組ませる。 ・実験からわかったことをまとめる際には、穴埋め式にし、実験結果や資料を意識してまとめられるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や生物の観察や実験に興味、関心をもち、学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ・学習の目的や方法に関する理解が不足している児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に関する事象に合った予想や仮説を自分で立てることが難しい児童が多い。 ・観察・実験の目的を理解できず、問題学習の学習の流れがつかない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想場面では、根拠のある予想をもたせられるよう、既習の学習内容や生活経験を振り返る時間を設ける。 ・観察や実験を行う際に、その目的に関して十分に確認させ、観察の際には、その視点を明確にしてから取り組ませる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの事象と関連付けて思考する力に個人差があり、仮説を立てることが難しい児童がいる。 ・仮説や実験の意図を理解していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・条件制御の考えは理解しているが、条件が増えると理解することが難しい児童がいる。 ・仮説の理由を既習事項や生活経験を挙げて児童が理解できるように説明することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説だけでなく、実験計画を立てる時間をしっかりと設け、条件制御の考え方を身に付けさせる。計画には文字だけでなく絵や図を使って視覚的に理解しやすくまとめたり、説明し合ったりする場を設ける。 ・既習事項や生活経験と事象を結び付ける知識の定着を図るために、振り返りで生活経験を考える時間を設ける。

6
年

- ・問題に対して、仮説、観察、実験を行って、解決する力が不十分な児童がいる。
- ・生活経験や身の回りの事象と関連付けて思考する力が乏しい。

- ・条件を整理して計画を立てたり、多くの結果を分析したりして結果・結論を導いたりする力が弱い。
- ・既習事項を活用することが難しい児童がいる。

- ・観察・実験の観点を明確にしてから計画させる。再現性のある確かな結果を選択させ、問題に立ち戻って考察させる。
- ・生活に関連したものを事象提示で使い、単元の終末にも同様のものを提示し、身の回りのものを再発見、再認識させる活動を設定する。

(5) 生活科

生活科の重点

- ・植物を育てる、生き物を飼育する、町探検に出かけ地域の人々と関わるなど、具体的な活動や体験を多様に設定する。それらの活動や体験を通して、気付いたことなどについて多様に表現し考えたり、様々な学習活動を行ったりすることを重視する。また、各教科等との関連を積極的に図る。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検・あさがおを育てる活動・夏の遊びなどに意欲的に取り組んでいる。児童によって体験してきたことに差がある。 ・経験したことや思いを表現したり、伝え合ったりすることに苦手意識がある児童がいる。友達と適切にかかわることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に活動に入っていない児童と入れない児童がいる。 ・自分の思いを伝える経験が不足している児童がいる。 ・友達とのかかわりがうまくできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のねらいの範囲で、あまり体験してきていないことも活動計画の中に入れ、多様な体験ができるようにする。経験不足の子には個別に声をかけ、活動が広がるようにさせる。 ・国語の話す聞く単元で学習していることを日常の生活場面でも取り入れ、思いを伝えたり、表現したりする経験を増やす。 ・友達とかかわる場面では、教師も一緒にかかわり、かかわり方のモデルを示す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの選んだ野菜を育てる学習に、ほとんどの児童が関心を持ち、育てた野菜の成長に気づいていたが、成長の様子をうまく表現できない児童がいた。 ・自分が育てたい生きものに対して親しみを持ち、大切に飼育していた。その一方で、変化や成長の様子に気付くことが難しい児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長の様子をうまく表現できない児童がいた。 ・生き物の成長の様子や変化に気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学習と関連付けながら表現の仕方を示していく。 ・グループで活動して変化や成長の様子に気づきやすくする。

(6) 音楽科

音楽科の重点

歌唱・器楽…曲想を捉え、思いや意図をもって主体的に演奏ができるようにしていく。

繰り返し練習をすることで、基礎的な技術を身に付けさせる。

鑑賞…様々な音楽に親しむようにし、基礎的な環境の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

音楽づくり…ICTのツールを用いて行い、音楽の仕組みを生かし見通しをもって音楽をつくるようにする。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> 歌うことや楽器の演奏に関心が高く意欲的な児童が多い。全身を使って表現することを楽しめる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌うことを恥ずかしがったり、楽器の扱いに難しさを感じてしまい諦めたりする児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数で合わせる活動を増やし、技能面よりも音を合わせたり、気持ちを合わせたりする楽しさを味合わせていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 歌うことや楽器の合奏に関心が高く意欲的に取り組んでいる。リズム楽器にも興味をもって取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカについて指使いに難しさを感じてしまい、つまずきを感じている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導する時間を設けたり、部分的に演奏したりするなど実態に合わせた指導を行い、どんな進度の児童も達成感が得られるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 歌うことや器楽への関心が高く、意欲的に取り組んでいる。特に器楽に関して興味がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーについて息の強さやタンギングなど音色について探求する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が範奏したり、美しい音色を出している児童に範奏させたりするなど、モデル提示を行い気づきの中から技術の習得をねらう。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 響く声で歌うことができる。リコーダーについても難しい運指にも意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要な児童にとっては、難しい運指の獲得に向かっていく意欲が下がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で練習する時間を設け、個別に対応する場面を設定し、全体の技術の底上げをねらう。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 小グループで合わせる、教え合うなど、教え合い学び合うことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の関係が良好でない児童は学び合いの場面で困ってしまう場面が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループを、進度別にする、教師側が指定するなど、どの子もグループでの活動ができるように指示をしながら進め意欲が高まるように工夫する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 合奏や合唱の場面では、自分のパートの役割を考え、意見を出し合いながら学ぶことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な奏法が得られていない児童が自分のパートを演奏できるようになるまでに至らず話し合いに参加できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じパートで話し合わせる、範奏をCDで聴かせる、など手立てを複数立てて取り組ませる。

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

- ・児童の発達段階や実態に合う題材を考え、実践する。
- ・のびのびと意欲的に活動できるよう、環境を整える。
- ・主体的・対話的で深い学びを通して活動できる。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に表現活動を楽しみ、のびのびと取り組んでいる。 ・取組内容や作業自体に時間がかかる児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クレヨン、絵の具、色鉛筆などの適切な使い方に苦労している児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描画材や道具の使い方は個別に支援をして、意欲を失わせないようにする。 ・作業の早い子の様子や作品を示して、見通しをもたせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に興味をもち、意欲的に表現活動を楽しんでいる。 ・理解面、技術面での個人差が大きく、自らの力で取り組むことが難しい児童がいる。 ・自分の作品には興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クレヨン、絵の具の適切な使い方、はさみ、のりの適切な使い方が十分に身につけていない。 ・作品完成に時間がかかる児童も多く、鑑賞時間が十分に確保できていない。 ・友達の作品について興味をもてない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な道具の使い方を、授業の最初に全体の場で確認する時間を設定する。 ・表現活動の中では、机間指導を丁寧に行い、道具の使い方を支援する。 ・グループトーキングなどをして友達と作品を見合い楽しむ時間を、十分に設定する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組み、のびのびと活動できる児童が多い。 ・理解面、技術面で習得の差が見られる。 ・自ら考えて作り上げることが苦手な児童がいる。 ・課題に対して、最後まで根気強く取り組むことが困難な児童がいる。 ・主体的・対話的な学びが不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描画材（絵の具、クレヨン等）の使い方の指導が不十分である。 ・活動内容の理解を図る指導が不十分である。 ・児童の実態に合った課題の準備が不足している。 ・鑑賞時間が不十分で、自分の活動の振り返りをしたり友達の作品のよさに気づいたりすることが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な道具の使い方について、ポイントを押さえ説明する。場合によっては実演する。 ・理解面や技術面に課題のある児童は、座席を前にして、個別で対応できやすい体制をとる。 ・児童の興味に合わせて取り組みやすい課題を準備する。 ・グループ活動や、鑑賞の時間の充実を図る。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組み、のびのびと活動できる児童が多い。 ・理解面、技術面で習得の差が見られる。 ・主体的・対話的な学びが不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描画材（絵の具等）の使い方の指導が不十分である。 ・活動内容の理解を図る指導が不十分である。 ・児童の実態に合った課題の準備が不足している。 ・鑑賞時間が不十分で、自分の活動の振り返りをしたり友達の作品のよさに 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な道具の使い方について、ポイントを押さえ説明する。場合によっては実演する。 ・理解面や技術面に課題のある児童は、座席を前にして、個別で対応できやすい体制をとる。 ・児童の興味に合わせて取り組みやすい課題を準備する。 ・グループ活動や、鑑賞の時間の充実を図る。

		気づいたりすることが少ない。	
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組み、のびのびと活動できる児童が多い。 ・理解面、技術面で習得の差が見られる。 ・自ら考えてつくり上げることが苦手な児童がいる。 ・課題に対して、最後まで根気強く取り組むことが困難な児童がいる。 ・主体的・対話的な学びが不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描画材（絵の具等）の使い方の指導が不十分である。 ・活動内容の理解を図る指導が不十分である。 ・児童の実態に合った課題の準備が不足している。 ・鑑賞時間が不十分で、自分の活動の振り返りをしたり友達の作品のよさに気づいたりすることが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な道具の使い方について、ポイントを押さえ説明する。場合によっては実演する。 ・理解面や技術面に課題のある児童は、座席を前にして、個別で対応できやすい体制をとる。 ・児童の興味に合わせて取り組みやすい課題を準備する。 ・グループ活動や、鑑賞の時間の充実を図る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組み、のびのびと活動できる児童が多い。 ・理解面、技術面で習得の差が見られる。 ・自ら考えてつくり上げることが苦手な児童がいる。 ・課題に対して、最後まで根気強く取り組むことが困難な児童がいる。 ・主体的・対話的な学びが不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描画材（絵の具等）の使い方の指導が不十分である。 ・活動内容の理解を図る指導が不十分である。 ・児童の実態に合った課題の準備が不足している。 ・鑑賞時間が不十分で、自分の活動の振り返りをしたり友達の作品のよさに気づいたりすることが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な道具の使い方について、ポイントを押さえ説明する。場合によっては実演する。 ・理解面や技術面に課題のある児童は、座席を前にして、個別で対応できやすい体制をとる。 ・児童の興味に合わせて取り組みやすい課題を準備する。 ・グループ活動や、鑑賞の時間の充実を図る。

(8) 家庭科

家庭科の重点

- ・衣食住や家庭生活に関心を持ち、進んで課題に取り組もうとする心情を培う。
- ・調理や裁縫などの実習を通して家庭生活の基礎を学び、家族の一員として実践する技能を高める。
- ・調理や裁縫などの実習を通して経験を増やし、生活の中で活用しようとする態度を育てる。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・電化製品の性能向上や、調理、掃除などの家事作業の負担を軽減させる様々な製品やサービスの普及により、子どもたちは家庭生活での経験が不足しがちである。 ・幼いころより家庭内での手伝いの習慣があまり定着していない子どもが多く、また、家事作業の知識の定着も不十分な子どもがいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手伝いの習慣が定着していないため、家事作業の知識が乏しい。 ・調理や裁縫においては、技能や知識において不足している部分がある。 ・IH クッキングヒーターを使用している家では調理に「炎」がないためガスの臭いをかいだり、燃焼の状態を見る経験がない。 ・家庭にやかんや急須がないため、扱ったことのない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスの器具栓、元栓をひねる経験を全員が行わせる。 ・やかんで湯を沸かし、沸騰している状態を目視で確認させる。 ・包丁の使い方や運び方、洗い方など丁寧に指導し全員に行わせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活での経験が不足している。塾や習い事に多くの時間を費やすため、家庭での家事の分担がなかったり、料理をしたことがなかったりと、家庭生活での経験が不足している。 ・包丁の扱いだけではなく、野菜の洗い方や卵のわり方など簡単な調理手順について未経験、自信のない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内で包丁を持つ機会のない子ども、油を使った炒め物の経験の少ない児童がいる。 ・マンションなどの集合住宅ではエアコンの使用を前提に間取りが設計されている場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜のための調理実習では、全員が1回必ず包丁を持つよう、あらかじめ誰がどの食材をどのように切るかを分担しておく。炒り卵では、自分の分は自分で調理させる。 ・映像や写真等を利用して視覚的に捉え、窓と通風や軒と日射など快適な住まい方を考えさせる。

(9) 体育科

体育科の重点

- ・ICTを活用し、ペアやグループでの学び合いを通じた課題解決的な学習を充実させていく。
- ・体育朝会で行う運動遊びを充実させ、運動の日常化につなげていく。
- ・主運動につながる運動や運動遊びを充実させ、授業の中に取り入れていく。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことや友達と関わることに對して、意欲的に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出身園での学習経験によって、運動体験の質や量に、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主運動につながる予備運動を充実させたり、変化のある繰り返しで楽しく取り組ませたりしていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びに対する興味関心が高く、意欲的に活動に取り組める児童が多い。 ・児童によって運動経験の差が大きく、技能面でも差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験の差が技能面の差に表れている。個別の指導が必要な場合もある。 ・よりよい運動遊びをめざして、取り組めていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の技能に応じて、楽しく活動できる場を工夫する。 ・ICT活用により、動きのイメージをもって経験のない運動遊びにも、恐怖心や苦手意識をもたずに取り組めるようにする。 ・ペアや小集団の取り組みを増やし学び合いを設定し、めあてをもって思考しながら取り組めるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を受け入れられず、チームで動く活動でも自分のことが中心であり、友達と協力して楽しく活動することが難しい。 ・チームで勝つために作戦を考える経験やみんなで楽しむための工夫を考える経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人での動きはできるが、チームの中では、自分勝手な動きになりがち傾向にある。みんなで楽しく活動することが難しい。 ・周りを見ないで、自分の意見を通そうと強い口調になったり、譲れなかったりする場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでの運動や小集団での運動を取り入れ、友達と協力して活動する楽しさを味わわせる。 ・チームでの振り返りや全体での振り返りの場面を作り、合意形成をしていく経験を積ませる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業への興味関心が高く、意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。 ・休み時間などに運動遊びに進んで取り組んでいる児童が多い。 ・技能の個人差が大きくなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団で行う運動では、個人差に応じた指導を行うことが難しく課題がある。 ・学習のねらいを理解して運動に取り組んでいる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアや小集団で運動に取り組む場面を多く設定し、互いに高め合おうとする意欲向上と、考えながら運動する習慣付けを図る。 ・学習前にねらいの確認をし、そのための手立ても提示することで、ねらいに向けて運動するよさを児童自身に実感できるようにしていく。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動することが好きな児童が多いが、グループやチームなどの集団での教え合いが難しい。 ・日常的にボールを使った遊び、鬼遊びに親しむ児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して、課題を解決していくために児童内の人間関係を考慮して集団を構成する。集団によって学び合いができつつある。 ・多様な運動を経験している児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアや小集団で運動に取り組む学習を多く設定し、互いに高め合おうする意欲向上と、考えながら運動する習慣付けを図る。 ・体育朝会で行っている運動遊びを多く取り入れることで運動に楽しむ姿勢を継続させる。またそのようなことにより、多様な運動経験を積ませる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験が少ない児童と、日常的に運動に取り組んでいる児童との間に大きな技能差が見られる。 ・身体が大きくなり、また習い事や塾の関係で運動する時間が減り、すぐに疲れてしまう児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験の少なさから、基本的な体の動かし方が身に付いていなかったり、運動を持続する体力が不足していたりする児童がおり、個別に指導する時間を設け、言葉掛けする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主運動に繋がる運動を取り入れ、運動を楽しみながら感覚作りを行い、体力の向上につなげていく。 ・ICTを活用し、自分の目を通して、動きを振り返る時間を設け、技能が向上していく過程の楽しさを味わわせる。